愛媛県新産クロヤツシロランについて

福　永　裕　一　　川　又　明　徳
〒770－0852　徳島県徳島市徳島町３－35
愛媛県総合科学博物館
愛媛県新居浜市大生院2133番地の２

愛媛県総合科学博物館研究報告，№12，23－24，（2007）

短　報

愛媛県新産クロヤツシロランについて

福　永　裕　一[1]・川　又　明　徳[2]

About the Ehime Prefecture new production *Gastrodia pubilabiata* Sawa.

Hirokazu Fukunaga, Akinori Kawamata

A Mycorrhizae *Gastrodia pubilabiata* Sawa. was recorded from Seiyo City, Uwazima City and Uchiko-cho central part of Ehime Prefecture in December 2006. This locality is corrosion soil in bamboo woods floor, stand by mountainous district. This discovery is the first record in Ehime Prefecture.

ラン科クロヤツシロラン（*Gastrodia pubilabiata* Sawa.）は，高知県南国市のスギが混生するモウソウチク林で採集された標本を基に，新種記載された無葉緑の菌根植物である（澤,1980）.日本では，本州，四国，及び九州に分布するが，生育が確認されている都道府県や生育個体数は少なく，環境庁編「レッドデータブック2000（改訂・絶滅のおそれのある野生生物８植物Ⅰ）」では絶滅危惧IB類（EN）に指定されている（環境庁自然保護局野生生物課,2000）.クロヤツシロランは，開花・結実期がほぼ同じであるアキザキヤツシロラン（*Gastrodia confusa* Honda et Tuyama.）に似るが，地表上の花茎がほとんど伸長しないこと，唇弁の表面に淡い黄白色の微軟毛を密生すること等で区別される.

筆者の一人である福永は，クロヤツシロランの原記載者である澤完氏と共に，かねてからヤツシロラン類の分布調査を行ってきたが，その調査の一環で愛媛県で野外調査を行った際に，愛媛県では新産となるクロヤツシロラン（Fig.1）の自生を確認したのでここに報告する.

今回確認されたクロヤツシロランの新産地は，愛媛県西予市宇和町で２産地，北宇和郡内子町で２産地，宇和島市三間町で１産地の計５産地であり，各産地共に約10－20個体がまばらに自生していた．生育環境は，ある程度湿気があり，薄暗いスギ混じりのモウソウチク林床で，シダ等の下草の無いほぼ平坦な腐食土に自生していた．クロヤツシロランは開花期間が非常に短いため，果実個体で発見されることが多く，今回発見したクロヤツシロランは全て果実個体であった．尚，クロヤツシロランの果実個体はアキザキヤツシロランの果実個体に似るが，蒴果及びその下の果柄上部が黒褐色もしくは帯赤黒褐色である，地表上の花茎長が約１㎝と非常に短い，塊茎が横細長いといった点で区別でき，今回発見したものは同定の結果，全てクロヤツシロランであった.

愛媛県におけるクロヤツシロランの記録は，原記載発表前に発行された山本四郎氏著の「愛媛県産植物の種類」(山本,1978）や愛媛県版レッドデータブックに無く（愛媛県貴重野生動植物検討委員会,2003),今回の報告



Fig.1　クロヤツシロラン *Gastrodia pubilabiata* Sawa.

1.〒770－0852　徳島県徳島市徳島町３－35
2.愛媛県総合科学博物館　学芸課　自然研究科
1.3－35, Tokushima-cho, Tokushima-shi, 770－0852, Japan
2. Dept. of Natural History Ehime Pref. Science Museum, Japan

は愛媛県において初記録となる．また，愛媛県内においては，クロヤツシロランやアキザキヤツシロランの生育に好適な環境と思われる竹林等が各地に見られ，まだまだ未調査の箇所が多いことから，今回の発見を機に今後新たな産地が発見される可能性も考えられる．しかしながら，確認産地の近辺では高速道路建設工事が行われ，生育に適した山林や竹林の伐採が行われており，それに加えクロヤツシロランは，巨大なコロニーを形成しないことから，個体数の存続基盤が脆弱であるため，絶滅する危険性は十分に考えられる．したがって，今後も引き続き調査を行い，生育の推移を見守る必要がある．

証拠標本

Uwa-cho, Seiyo-shi, Ehime Prefecture H. Fukunaga 349, 18 Nov. 2006

Uwa-cho, Seiyo-shi, Ehime Prefecture H. Fukunaga 352, 18 Nov. 2006

Uchiko-cho, Kita-gun, Ehime Prefecture H. Fukunaga 360, 18 Nov. 2006

Uchiko-cho, Kita-gun, Ehime Prefecture H. Fukunaga 347, 18 Nov. 2006

Mima-cho, Uwazima-shi, Ehime Prefecture H. Fukunaga 343, 18 Nov. 2006

引用文献

愛媛県貴重野生動植物検討委員会編（2003）：愛媛県レッドデータブック Red Data Book, Ehime - 愛媛県の絶滅の恐れのある野生生物－．愛媛県県民環境部環境局自然保護課，松山．447pp.

環境庁自然保護局野生生物課編（2000）：改訂・日本の絶滅の恐れのある野生生物－レッドデータブック－８植物Ⅰ（維管束植物）．財団法人自然環境研究センター，東京．660pp.

澤完（1980）：高知県中部のラン科植物．高知大学学術研究報告－自然科学，29, pp. 59 - 71.

山本四郎（1978）：愛媛県産植物の種類．愛媛植物研究会，今治．217pp.